

第31回 少年ジェットマン「希望の翼」 研修報告書

31rd Shonen Jet "Wings of hope"

Study Abroad Report

January 6 - 14, 2023 Gold Coast, Australia





CONTENTS

01 表紙 (パシフィックフェア)

02 目次

03 派遣団員名簿 海外研修行程表

04 ～ 23 研修報告

04 少年ジェット「希望の翼」の軌跡

07 武岡 真吾 (栗山町教育委員会)

及川 洵成 (栗山町教育委員会)

08 上中 美海 (岩見沢東高等学校2年)

10 対馬 優斗 (栗山高等学校2年)

12 原田 涼花 (栗山高等学校2年)

14 大西 杏佳 (北星学園女子高等学校4年)

16 佐藤 蒼太 (岩見沢東高等学校1年)

18 福井 里紗 (北広島高等学校1年)

20 村上 桜 (千歳高等学校1年)

22 山本 啓翔 (岩見沢市西高等学校1年)

22 佐藤 柚希 (栗山中学校3年)

23 村上 颯一 (栗山中学校2年)

24 裏表紙 (マウントクーサ)

栗山町では外国でのホームステイ体験や交流を通じて、国際感覚豊かな青少年育成のため、町内の中学生・高校生を海外に派遣する『少年ジェット「希望の翼」』事業を、平成2年(1990年)から実施しています。今回派遣されたのは中学2年生から高校2年生までの10人。派遣団員は9回の事前研修でホームステイの心得や英会話の学習を行い、海外研修に備えてきました。ゴールドコーストでの研修は2人1世帯、4泊5日のホームステイでのホストファミリーとの交流を中心に、班別行動、施設見学、現地中高生との交流などさまざまな体験をとおしてオーストラリアの文化や歴史について学習しました。

本書では、第31回少年ジェット「希望の翼」派遣団のオーストラリアでの海外研修を報告します。

派遣団員名簿



海外研修行程表

月 日	場 所	時 間	交通機関	内 容
1日目 令和 5 年 1月6日(金)	総合福祉センター 総合福祉センター発 新千歳空港発 成田空港着 成田空港発	12:00 12:30 15:20 17:05 21:00	貸切バス GK 114 便 JQ 012 便	出発式 出発式終了後・栗山町から新千歳空港へ 搭乗手続き・新千歳空港から成田空港へ 成田空港からゴールドコースト空港へ
2日目 1月7日(土)	ゴールドコースト 空港着 市内見学	6:40 7:30 13:00	専用車	入国手続き・ゴールドコースト市内へ 市内見学（ポイントデンジャー・市内散策） ホストファミリーと対面 各ホスト宅へ
3日目 1月8日(日)	ゴールドコースト	終日	—	ホストファミリーと休日を過ごす
4日目 1月9日(月)	ゴールドコースト	8:00 15:30	ホスト送迎	オーストラリア文化を学ぶ英語クラス オーストラリア中高生との交流 ホスト宅へ
5日目 1月10日(火)	ゴールドコースト	8:00 17:00	専用車 ホスト送迎	カランビン野生動物公園の訪問 ホスト宅へ
6日目 1月11日(水)	ゴールドコースト	8:00 16:00	専用車 ホスト送迎	トロピカルフルーツワールドの訪問 パシフィックフェアショッピングセンターの訪問 ホスト宅へ
7日目 1月12日(木)	ブリスベン	8:00 18:00	ホスト送迎 専用車	ホストファミリーとお別れ ブリスベ市内見学（マウントクーサ展望台、サウス・バンク・パークラ ンド（博物館・美術館））
8日目 1月13日(金)	ゴールドコースト 空港発 成田空港着	6:30 18:30 20:00	JQ 011 便	搭乗手続き・ゴールドコースト空港から成田空港へ 入国手続き・成田のホテルへ
9日目 1月14日(土)	成田空港発 新千歳空港着 総合福祉センター	10:30 14:30 16:00	GK 113 便 貸切バス	搭乗手続き・成田空港から新千歳空港へ 新千歳空港到着後、栗山町へ 解散式

少年ジェット「希望の翼」 の軌跡

2022/06/23	実施起案
2022/07/11	募集チラシ配布
2022/08/20	面接(至2022/08/22)
2022/09/09	派遣団決定
2022/09/27	結団式・説明会
2022/09/27	事前研修(至2023/01/04)
2023/01/06	本研修(至2023/01/14)
2023/02/05	事後研修(至2023/03/25)

1月6日金 いざ出発

総合福祉センター「しゃるる」で第31回少年ジェット希望の翼出発式を行いました。吉田教育長が「次代を担う皆さんに大きな期待をしています。失敗しない人間は何も行動を起こさない、人間は失敗して成長します。何事にも臆することなく、自分を表現してきてください。皆さんが成長した姿を見るのを楽しみにしています。そして、家族や友達に経験したことを伝えてください。」と激励しました。

大西杏佳団長は「これまで事前研修を通してみんな頑張ってきました。各々で考えた目標を達成できるように全力を尽くしたいです。そして、この研修の機会をくれた教育委員会や家族、栗山町の皆さんに感謝の気持ちを忘れずに行ってきます。」と決意を述べました。保護者に見送られての出発です。

新千歳空港では、団員の1人が出発の手荷物検査で危うく重量オーバーに……そのハプニングのお陰で、みんなリラックスすることができたようです。搭乗手続きを終えると、成田空港経由オーストラリア・ゴールドコースト空港行、いざ出発です。

1月7日土 到着 そして
ホストファミリーと対面

成田空港から9時間かけてゴールドコースト空港に到着。空港内で夏服に着替え、外に出ると雲一つ無い青空が私たちを迎えてくれました。真夏のオーストラリアは30℃以上ありましたが、湿度がないのでカラッとしていて不快感はなくても心地が良かったです。

現地ガイド・ジェイミーさんの案内で、最初に向かったのはポイントデンジャー。ここはオーストラリアのクイーンズランド州(QLD)とニューサウスウェールズ州(NSW)の国境(ボーダー)に位置し、サーフィンで人気のデュランバビーチが見下ろせるところにあります。見下ろす眺めは絶景で、団員一同感動していました。



昼食はハンバーガーでした。とてもボリュームがあり、シエアをしながら頑張って食べる団員たち・・・チームワークで完食です。お腹一杯になった団員たちは、次にロビーナ・コミュニティ・センターへ向かいました。ここで団員たちは、ホストファミリイと対面します。緊張の瞬間です。迎えてくれたホストファミリイとともに、それぞれの自宅へと向かいます。この研修の最大の目的であるホームステイが始まりました。5日間のホームステイで団員たちはどれだけ挑戦することができようか。多くのことを経験して欲しいが、きちんとホームステイできるのか、期待と不安を抱きながら見送りました。

1月8日 水 ホストファミリイと過ごす1日

今日はホストファミリイと過ごす1日です。それぞれ、ビーチやショッピング、教会、ドライブなどに連れて行ってもらい、夕方には、散歩や会話、一緒に料理を作ったりと楽しく過ごしたようです。

1月9日 木 英語レッスン&交流

朝、研修会場で団員たちに会うと、ホストファミリイも温かく迎えてくれたようで「一緒に散歩や料理をした」「ビーチに行った」などと団員たちで情報交換をする姿が見られました。

午前中はジェイミーさんの英語レッスン。午後からは現地の中高生たちと交流。クイズやゲームをしながら楽しく英語で交流できました。

昼食はホストファミリイが作ってくれたお弁当です。サンドイッチにデザートフルーツやお菓子も付いていて量が多い！オーストラリアスタイルのお弁当を堪能できたようです。

1月10日 金 カラランビン野生動物公園

ガイドのジェイミーさんと現地の学生が、カラランビン自然動物保護園を案内してくれました。カラランビン自然動物保護園では、100種類以上の動物が自然環境に近い状態で保護されており、27ヘクタールの巨大な敷地では園内移動用のミニ列車も運行しています。オーストラリア固有の動物と触れ合うことができ、朝から夕方まで1日中楽しむことができます。

団員たちは2グループに分かれ、園内を見学しました。カンガルーの餌やり体験や、フリーフライトバードショー、アボリジニダンスショーと内容も盛りだくさん。コアラやカンガルー、ウオンバッドなど動物と触れ合いながら、現地学生との絆も深めました。



1月11日 土 トロピカルフルーツワールド

疲れも溜まってきたようで、出発までの間ぐったりして心配しましたが、出発と同時に元気な笑い声が・・・心配なさそうです。
この日は、トロピカルフルーツワールドを見学しました。



広大な土地に500種以上のフルーツが生育されており、その園内はオーストラリアの大自然を体感できる人気の観光スポットです。

ここでは大型トラクターが牽引する車両に乗って、園内観賞、動物の餌付け体験、フルーツのティスティング体験をしました。アボガド、パイナップル、マンゴーなどはもちろん、聞いたことも見たこともない種類の果物の木がたくさんありました。

初めて食べるフルーツもあり、正直あまり口に合わない物もありましたが、食べてみないと分からない・何事も挑戦！みんな少し警戒しながら食べていました。



1月12日**木** ホストファミリーとの別れ〜ブリスベンへ



ついに5日間お世話になったホストファミリーとの別れの日です。握手を交わし笑顔でお別れできた人、涙を流し、「帰りたくない」という人、それぞれの思いを胸に感謝の言葉を伝えました。皆、ホストファミリーとしても良い時間を過ごしたことがわかるものでした。別れたあとは、ブリスベンを内を見学したり、美術館や博物館で歴史や文化の違いを学びました。お土産を買うなどショッピングと観光も楽しめたようです。最後の夕食は皆と一緒にオージービーフのステーキを食べる予定でしたが、ジェイミーさんがハンバーガーを用意していました。私たちのオーストラリアの食はハンバーガーで始まり、ハンバーガーで終わることとなりました。

1月13日**金** Goodbye オーストラリア

飛行機出発の関係で6時に朝食をとり、6時30分に空港へ向け出発です。ゴールドコースト空港到着後は、荷物の重量チェックにより多少の詰め直しも必要でしたが、無事預けることができました。ゴールドコースト空港からオーストラリアを後にしました。9時間のフライトの間、保護者への手紙を書いたり、これまで研修の思い出を振り返ったり、いつの間にか寝ていたりしながら成田空港に到着です。成田で1泊し、明日帰町します。

仲間と同じ時間を共有できる大切な1日ということで、深夜までたくさん語り合ったようです。



1月14日**土** ただいま、栗山町



最終日、みんなついに帰るのかと少しセンチメンタルなっているようでしたが、無事北海道へ帰ってきました。9日振りの北海道は驚くほど寒かったです。

解散式では原田涼花副団長が代表して感想を述べました。「ホームステイやオーストラリアについての学びを通じて、自分たちの意識が変わっていくことを感じた研修でした。一生忘れることのない最高の仲間たち、研修の機会をくれた栗山町の皆さん、そして家族に大変感謝しています」という言葉にグッとくるものがありました。その後、団員が一言ずつ感想を発表し「自分の今できるすべてを出し切ることができた」「この経験をいかし、今後海外に行きたい」などと話し、最後に家族への感謝の気持ちを込めた手紙を手渡しました。保護者の皆さんはどう感じたでしょうか。



海外研修を終えて

～団員たちに捧げるメッセージ～

栗山町教育委員会 武岡 真吾

少年ジェットの担当になった時、正直に言うと不安でいっぱいでした。外国には1度しか行ったことがないし、英語も話せないし、本当に自分が担当して良いのか、何度も悩み考えました。しかし、海外へ派遣していただける機会に、「感謝しなくてはいけない、自分自身を成長させよう」と奮い立たせ、受け入れたのがスタートです。自分がやると決めたからには精一杯の姿勢でやろうと、その日から、準備に取り掛かりました。

少年ジェットは、海外研修で国際感覚を養うだけのものではないと考えています。ですから、事前研修では、オーストラリアに行くための文化学習や海外研修の心得、英会話レッスンはもちろん、団員同士の仲間づくり、挑戦しあきらめないこと、役割に責任を持つこと、日本のことや栗山町のこと、感謝すること、そして将来の夢についてなど、様々なことを話し合い、団員自身が考えるきっかけを提供したつもりです。コロナ禍であつたので、事前の宿泊研修ができないなど交流の時間が足りないと思っていました。もともと同じ時間を共有できれば、自分の伝えたいことを伝えられるのにと、もどかしく感じていましたし、事前研修の度に、夜な夜な反省していました。

事前研修を通して共に行動していると、個性的な団員たちにまともにも見られるようになり、「この仲間たちと最高の研修にしたい」と思うようになりました。

出発式では「何事にも挑戦し、研修報告会を終えたときに、団員の顔つきになつて欲しい」「物事をどう捉えるかで、結果は大きく変わる。出会いはまたまたではない、運命と捉えている。このメンバーは運命の絆の糸で結ばれた最高のメンバーだ」と伝えました。報告会で、みんながどのような「顔」になっているのが楽しみです。

オーストラリアでは、日本とは全く異なる気候や風景、自然環境、文化、生物、食べ物、国民性などに触れることで、見識を広げ、成長を実感することができたのではないのでしょうか。子ども達の順応力には驚かされます。英語でのコミュニケーションや生活環境、食事などに不安を感じながらも、何事にも挑戦し、成長への養分を吸収していくのは若さのなせる業でしょう。私自身、みなさんと過ごす海外研修は毎日が楽しく幸せを感じていましたし、また、多少のトラブルがあつても、助け合いながら乗り越えることができたと考えています。

外国に出て初めて分かることがあります。

ます。日本ではコロナ禍によりマスク着用の生活が当たり前でしたが、オーストラリアではマスクを着用している人はいなく、日本の常識が、一步海外へ出れば通じないなど、「世界の多様性」を知りました。また、住み慣れ親しんだ故郷栗山町、そして家族が、私たちにとつてどれ程大切で、掛け替えのないものなのか気づくことができました。

少年ジェットは、これからの子ども達の可能性を伸ばす「栗山町」の事業です。だからこそ、子ども達には生涯忘れることが出来ない体験をさせてあげる必要があります。そうすることで、将来、夢に向かって大きく羽ばたいてくれるはずですし、大人になったときに栗山町への想いが強くなると信じています。

団員の皆さん、素晴らしい成長の機会を与えてもらったことに対する感謝の気持ちを忘れないでください。そして、温かく見守ってくれた両親への感謝の気持ちを忘れずに、これからの自分の可能性を信じて、日々精進することを怠らず、「夢」に向かって歩んでください。

皆さん、また会いましょう。
ありがとうございました。



「初めてのホームステイと仲間たち」

岩見沢東高等学校2年 上中 美海

私

が少年ジェットに申し込
んだ理由は、姉の影響を
受けたからです。数年前に姉は

この少年ジェットでオーストラ
リア・パースへ研修に行きまし
た。滞在中にスマートフォン
を通じて姉から届く日本では決
して味わうことのできない景
色、動物の写真がとても印象的
でした。コロナ禍を経て3年
ぶりの募集となった今回の少年
ジェット派遣団員、私は今回が
最初で最後の応募だと思い臨み
ました。事前に提出する作文や
アピール文、選考当日に行われ
る個人面接と集団面接は自分の
満足の行く結果に終わりました
。そして、面接日から約1ヶ
月後、私の元には合格通知が届
きました。「やった。私もオー
ストラリアに行けるんだ。」と
とても喜びました。

団員との初顔合わせの日、誰
が受かったのかな、どんなメン
バーがいるのかなとドキドキし
ながら会場へ向かいました。そ
こにいたのは別々の高校へ行っ
た同級生、高校の後輩、顔と名
前は知っているなどといった見

知った人ばかりでした。そこは

緊張の場から安心の場へと変
わりました。9回に渡って行
われた事前研修では、仲間と少
しでも仲良くなれるよう意識し
ました。中学生2人とは関わり

が全くなかったのですが、どのよう
に接したら良いかわかりません
でした。なるべくみんなと接しよ
う、なるべく明るく接しようと
思ってもなかなか自分の思い描
くようにはなりませんでした。

3回行われたテッサ先生、ハナ
先生による英語レッスンでは英
語を楽しく学んで覚えることが
できました。簡単な文で会話を
することから始まり、クイズや
ゲームを通じてオーストラリア
の文化を学びました。また、団
員とのチームワークを築くこと
ができました。

ここまで団員との交流につい
て触れてきましたが、私が1番
団員との仲が深まったと思う
のはやはり現地研修です。1日
中行動をとることにすることで、今
までわからなかった団員の一面
が見えたり、以前よりも気楽に
話せるようになったりしまし





た。約1週間のオーストラリア・ゴールドコースト現地研修では、現地をバスで見学するところから始まり、オーストラリア文化を学ぶ授業、現地の中高生とのコミュニケーション授業、現地でしか見られない珍しい動物との触れ合い・植物の鑑賞、ブリスベンの市街散策、そしてメインのホームステイを経験しました。英語を使う場面が多くあり、相手の英語が上手に聞き取れなかったり自分の言いたいことを話せなかったりしましたが、自分が学んできた英語が現地の人に伝わったときはとても

嬉しかったです。また、オーストラリアはとても優しい人が多く、接客が丁寧でわかりやすかったです。現地の人に日本語で話しかけられることもありました。

ホームステイではホストファミリーのスマス夫妻と過ごしました。ゴールドコーストのショッピングモールを数ヶ所まわり、オーストラリアで有名なお菓子をカゴいっぱい購入しました。またオーストラリアブランドの品をたくさん購入することができました。ホストファミリーはとても優しい人で、私がインターネットで調べて行きたいと言った店に車で連れて行ってくれました。夕食後には、フルーツやポップコーン、クッキーを食べながらみんなでディズニーマーション映画を見ました。また、ある夜には散歩したいという要望を叶えてくれて、ホストファミリーのリチャード案内のもと、周辺を散歩することができました。私

がこのホームステイを楽しむことができたのは、ともに同じ家

でホームステイを経験した原田さんの存在が大きいです。私ひとりだととても緊張してしまうと思うんですが、積極的に行動できる原田さんがそばにいてくれたからスマス夫妻と楽しく会話できたり、ときどき要望をしてみたりできたのだと思います。2人きりの時間には絶え間なく会話が続きました。中学の同級生ということもあり、とても話が弾みました。この時間がとても幸せでした。このホームステイ期間は原田さんに助けられました。感謝でいっぱいです。

この現地研修を楽しむのに大事なことが2つあります。まず1つは最高の仲間を見つけることです。なんでも話せる仲間がいるとどんな困難も乗り越えられます。オーストラリアという異国において貴重な日本人の仲間とは絶えず協力が必要だと思いました。そしてもう1つは英語のスキルです。いくら日本人同士の仲が良くても、現地の人と交流できなければ元も子もありません。しっかりと着実に

自分の英語のスキルを上げて現地を訪れるべきです。

英語は全ての国で使える言語で、英語が公用語でない国であっても英語は伝わるので、これから英語の勉強を続けなさい。これはホストファミリーから教えてもらった言葉です。この言葉を聞いたとき、本当にその通りだと思いました。私はまた海外へ行くためにこれからも英語の勉強を続け、もっとレベルアップした状態で海外を今回よりもっと楽しみたいです。





「オーストラリア研修を終えて」

栗山高等学校2年 対馬 優斗

私

は、1月6日～14日まで7日間のオーストラリア研修に行ってきました。

なぜこの研修に参加したのかと言うと、自分は、中学生の野球をしている頃にアメリカで開催される大会に出場できるチケットをもらったのですが、いろいろな理由で行くことができず、海外へ行きたい気持ちのまま終わってしまいました。

英語や海外に興味を持ち始めたのは中学生の頃で、それから洋楽を聴いたり、海外の動画を観たりしていました。そして「少年ジェット」を知り、この日まで抱いていた海外への憧れを胸に応募しました。それから行かせて頂けることになり、研修本番に向けて準備をしました。一緒に行く仲間たちとともにたくさんさんの事前研修を重ね、英語を一生懸命勉強しました。たくさんコミュニケーションを取っていくうちに、あっという間に仲良くなれました。事前研修で

はALTにも協力して頂き、とても感謝しています。

そしてオーストラリア研修当日、楽しみであり眠れないまま9日間の長旅がスタートしました。早速、1日目から成田空港で1人の外国人のおばあちゃんが自動販売機の使い方がわからなく困っていました。それを見たとき、「助けなきゃ」という感情が湧き、英語が通じるか少し不安もありましたが思い切って話しかけました。「何かお困りですか?」と。そうすると「はい。」といったので使い方を自分なりの英語で説明すると、とても笑顔で「本当にありがとう。」と言ってくれました。その時、英語が伝わった嬉しさと、思い切って声をかけることができたことに対して凄く成長を感じました。1日目から良いことがあり、良い研修になると自信がつかしました。

ワクワクな気持ちいっぱい初めて訪れたオースト





リアの雰囲気はすごく穏やかで、現地の人たちもとてもフレンドリーに優しく接してくれました。自分とは話すことが大好きなので自ら話しかけ、失敗を恐れなくて英語を話し続けました。ホストファミリーとも対面し、最初は気を使っていたけどだんだん慣れ、気楽に話せるようになっていきました。ホストファミリーに日本で作ったお土産（だるま）をプレゼントし、だるまの説明も英語でしました。とても喜んで、家に飾ってくれています。ゴールドコース

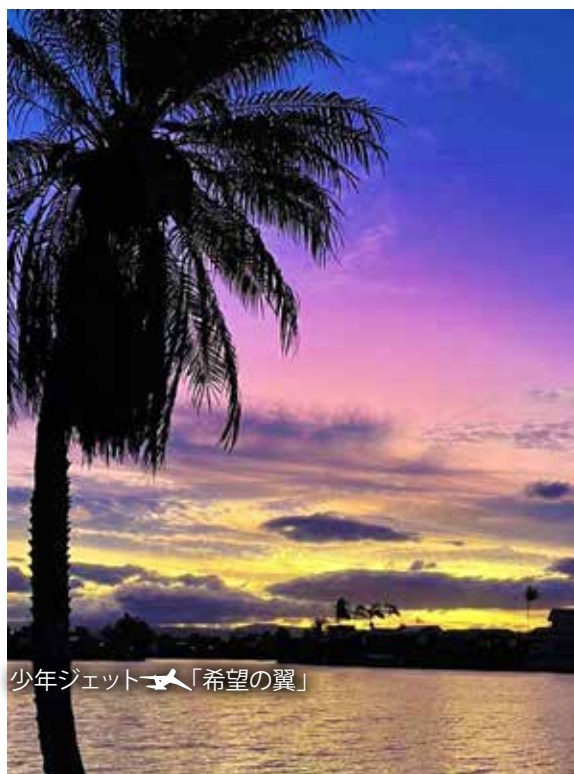
トでは、ホストファミリーとたくさん出かけました。スーパーマーケットに行ったり、お土産屋に行ったりして休日を楽しめました。そこでたくさん失敗もしました。英語がうまく聞き取れていないのに何となくで答えてしまったり、買いたくないものを買いたいと間違えて言ってしまった、くじけそうになった時もありましたが、自分の中で「失敗からたくさんのかを学ぼう」と決めたので頑張りました。そうやって頑張っているうちに、ホストファミリーから「君は情熱的だね」「人と話すのが上手だ」と言われました。そう言ってもらえるとは思ってもいなかったのが驚きました。けれども、このように頑張っていれば誰かが自分の頑張りを認めて応援してくれることを知りました。それからたくさんさんのことを頑張れるようになりました。ホストファミリーの方々はとてもやさしく接してくれ

て、たくさんさんのことに協力してくれました。この恩を返せる機会を作って、倍にして返したいと思っています。ゴールドコーストは、夏だったのもとても暑く、海に入ったら気持ち良かったです。またオーストラリアに行きたいと思っています。一緒に行った仲間たちと過ごした時間もとても楽しく、たくさんさんの思い出を作ることができました。

研修を終え、帰ってきた後の変化はたくさんあります。まず、物事の考え方や行動力など、行く前の自分より大人になった気がしています。親などに頼りがちなのですが、自分のことは自分でやるようになり、今後家を出た時、苦労しないように頑張っています。今回の研修は今後の自分に良い意味で大きな影響を与えてくれました。

最後に、少年ジェットに応募しようとしている方へメッセージを送ります。まず、少しでも英語や海外に興味

があり、自分を成長させたいと思っているのであれば、行けるのであれば、迷わずに行ったほうがいいと思います。少し不安や抵抗もあると思いますが、自分が想像している世界との違いを目に焼きつけてください。行って後悔はしないで、自分の殻を破って思い切って行ってみてください！本当に感動だらけの夢の国なので、日本と違う文化をたくさん学んでほしいと思います。そして、将来の自分のためにたくさん成長してください！





「海外に一步踏み入れて」

栗山高等学校2年 原田 涼花

私

は、中学生の時から海外に憧れを持っていました。今回、少年ジェットが行われることを知り絶対に参加したいと思いました。

なぜなら、過去に姉が少年ジェットに参加した際に、オーストラリアでの色んな思い出や、日本では学べないことをたくさん学べたと自慢気に話す姿を見て、強いあこがれを持ったからです。応募してから、選考のための面接試験がありました。私はすごく緊張し、自分が選ばれるのか不安でしたが、行けるとわかった時は、とても嬉しかったです。友達からもたくさん応援の言葉をもらったので、合格したからには、絶対に最後までやり遂げたいという気持ちが強くなりました。

その後、現地に行くまでの間事前研修が行われ、メンバーとたくさん触れ合える時間がありました。しかし、私はメンバー全員が仲良く出来ていないのではと感じていました。副団長として、みんなが一丸となれるよう、引率の方に相談し色々な事

を実行しました。

緊張がほぐれたのか少しずつみんながお互いに話し合えるようになりました。その後、ホストファミリーへのお土産づくりや、団旗制作などを行いました。お土産は日本の伝統工芸でもあるダルマを、みんなで一生涯懸命作りました。団旗も協力し合いながら制作することができ、とても良かったです。

出発の日、私はゴールドコースト空港に着くまでの飛行機の中で、初めての海外に行くプレッシャーから、「本当に海外で生活できるのか」「英会話でのコミュニケーションがとれるのか」と不安に駆られていました。しかし、ホストファミリーとの対面の時、ホストがとても優しく、爽やかな笑みを見せてくれたので、その不安も一気に吹き飛んでいきました。ホストファミリーと一緒に世話になった友達とたくさん会話をしたり、ショッピングや、海に行ったりたくさん交流することができました。良い思い出を作ることが出来ました。ホストファミリーから『英





語が上手くなっているね』と褒めてもらえたことがすごく嬉しかったです。一緒に過ごす期間は短かったですが、別れるのがとても寂しく嫌でした。もっとコミュニケーションを取れば良かったと少し後悔をしました。

研修プログラムの現地中高生との交流では、早く話されると単語も聞きづらく、少し苦慮しましたが、じつくりとリスニングしていると相手が何を話しているのか少しは理解できるようになりました。何より、自分の英語力を試すことができたのでとても良かったです。

野生動物公園は、コアラやカ

ンガルなど日本では見たことのない動物がいました。私は、色々な動物を見ることを楽しみにしていました。1番の楽しみはコアラを抱くことでした。しかし、コアラを抱っこするイベント時間に間に合わず、とても残念でしたが、こちらは次にオーストラリアに訪れた時の楽しみにとっておきます。

トロピカルフルーツワールドでは、現地で栽培している様々なフルーツを鑑賞しました。見たことのない果物がたくさんあり、ジャックフルーツという世界最大の果物は、とても大きくて驚きました。他にも、バナナの試食や、マカダミアの殻を割り採れたてのナッツを食べました。とても美味しく、何個も食べてしまいました。ここでしか味わえないフルーツなどもあるのでフルーツ好きにはおすすめのスポットです。

ブリスベン博物館では、ダイオウイカやコアラ、虫の標本、動物の剥製がありました。日本には生息していない生物が多く、良い勉強になりました。

自分にとって毎日が勉強になり、楽しく過ごしていました。気がつけば、帰国する日が近づいていました。オーストラリア最終日も、みんなで過ごす時間は楽しくあつという間に過ぎていき、とうとう帰る日がやってきました。私はまだ日本に帰りたいという気持ちが大きくなっていたのでとても寂しい気持ちになりました。

今は、夢のような時間が終わる素晴らしい仲間とも離れ、日常の生活に戻っています。しかし、生涯忘れることのできないこの経験は、これから大人になり年をとっても思い出として心に刻まれていると思います。また何かの機会にこのメンバーと引率の方々と集まりたいです。

今回の研修を機に、もっとコミュニケーション力をつけるために地域の行事にも積極的に参加したいと思っています。し、高校生活もあと1年なので、もっと英語を勉強したいです。将来は英語を使う仕事に就きたいと考えているので、後悔のな

いよう取り組んでいきます。

今後、少年ジェットに参加しようと思っている方がいれば、迷わず参加して欲しいと思います。参加して後悔は絶対ありません。海外でしか知ることのできないものが多くあります。1度海外に行けばその国だけではなくもっと違う国に行きたいと思うかもしれません。様々な事に挑戦し、良い経験をして欲しいと思います。

最後になりますが、今回お世話になった栗山町教育委員会の皆さん、お父さん、お母さん、ホストファミリー、そして、最後まで励まし合い、強い絆で結ばれた団員たちに約束します。

この研修は、自分を将来の進むべき道に導いてくれるものとなりました。この素晴らしい機会を与えてくれた全ての人に感謝し、自分の言動に責任を持ち、ふるさと栗山に恩返しをしながら、自分の夢に向かって邁進いたします。本当にありがとうございました。





「keep going」

北星学園女子高等学校4年 大西 杏佳

ま

ず私たちは千歳空港から成田空港を経由し、

ゴールドコースト空港に移動しました。その際にオーストラリア行きの飛行機乗り場での日本人の少なさに驚きました。なぜなら辺りを見渡せば髪がブロンドヘアで英語で会話をしている人達ばかりだったからです。

私にはどれも興味深いものばかりでした。オーストラリアで初めて食べたハンバーガーは、私の顔ぐらいの大きさのものが出てきました。

待ってる間にカードゲームで盛り上がっている人がいたり、寝てる人がいたり：国内線では感じるものの出来ない外国ならではの空気感がありました。こうして私のオーストラリア研修が始まり、飛行機の中で9時間の時を経て着いたオーストラリアは太陽の光が眩しく気温も高かったです。北半球の日本と、南半球のオーストラリアでは季節が真逆のため、真冬の北海道と真夏のオーストラリアでの寒暖差に驚きながらもその暑さにどこか心地良さを感じました。向こうに着いてからは見るものが新鮮で

お腹も満たされ、ついにホストファミリーと対面しました。私自身この研修のためにオーストラリアのスラングや単語、英会話の練習をしていましたが自信があるかと言われればそうではなく、不安が強くある中での対面となりました。いざ会ってみると優しいご夫婦で、お昼ご飯を食べてないかと思っ用意してくれたり、分からなかったり伝わらないことがあれば翻訳機を使って伝えてくれました。ですが、やはり最初の頃は英語を喋る勇氣を持つことは大変でした。お店に入って欲しいものがあっても、果たして無事に買えるのか、店員やレジに並んでいる人の迷惑にならないか、不安は沢山ありましたが、





実践してみないことには分かりません。私は勇気を振り絞ってレジに向かい、ドキドキしながらも何とか買い物をする事が出来ました。そのような不安もあるなか私は研修を終えることができました。

終えて感じたことは3つあります。

1つ目は文化の違いです。オーストラリアは日本よりも宗教が日常的にあるため私のホストファミリーも教会に行つて祈りを捧げたり、休日の午後はどこのお店も閉まるのが早かった

りと、日本とは違ったことがあります。

2つ目は、ホームステイに対する考え方です。今回の研修で最も楽しみにしていたホームステイは、私自身あまり納得のいくものではなかったです。ホームステイと聞くと私は、ホストファミリーと沢山話したりどこかに連れて行つても良かったりできるものだと勝手に思い込んでいました。ですが、現実はどうでもありませんでした。もちろん私の英語力の足りなさも理由かもしれませんが、ホストファミリーとの会話はあまりなく、外出はあまりないといった感じの生活でした。もちろん楽しかったことや感謝の気持ちもあります。ご飯を作ってくれたり、私たちに気をつかってくれたり、良いことも悪いことも含め私はすごく良い経験になりました。また自分を大人にさせてくれた経験でもありました。

3つ目は、外国への好奇心、興味についてです。私自身小さい頃から外国語や外国の文化について興味があつたため、小学5年生の頃に韓国語を学びだし、韓国に行つたこともありました。今回は初めて英語圏の国に行きました。世界の公用語と言われている英語に実際に触れてみて「やっぱり英語つて良いな」「外国つて良いな」と思いました。意外にも自分の英語がネイティブの人に伝わるということを実感して私自身の自信にも繋がりました。また日本とは違った風景、空気、人々、何もかもが違つていて私にとつては本当に興味深いものばかりでした。

日本とは違う面白さがあるからこそ行きたくなる。私は、色々な国の人と友達になつて世界を見てみたいという気持ちがよりいっそう強くなりました。

今回の研修を通じて私は、日本との文化、人、服

装、街並みの違い、ホームステイや留学に対しての考え方など、さらに興味を持つことができました。また、これからの自分のすべきことや自分のモチベーションアップにも繋がりました。このような貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございます。少年ジェット（希望の翼）から学んだことや身についたことを忘れずに、自分のやりたいことを明確にして自分らしく進んでいきたいと思っています。





「enjoy the challenge」

岩見沢東高等学校1年生 佐藤 蒼太

少

年ジェットに申し込んだ理由は、英語力を身につけたかったからということと、一度も海外へ行ったことがなかったため海外の文化や生活に実際に触れて知識を広げたいと思ったからです。

私はオーストラリアに行くにあたって、大きく2つの目標を立てました。1つ目は、「積極的にコミュニケーションをとる」です。ホームステイ中などで上手に伝えられないときでも、消極的になるのではなく、自分が知っている単語で補ったり、ジェスチャーを交えて伝えようとすることを意識しようと思い、目標の1つとしました。2つ目は、「たくさん挑戦してとにかく楽しむ」です。海外へ研修に行けるというのはまたとない機会なので、後悔しないよう何事にも挑戦し、自分を成長させようと思い目標にしました。

次に私がオーストラリア

で体験したことを3つに分けて紹介します。

1つ目はトロピカルフルーツワールドの見学です。トロピカルフルーツワールドとは、500種類以上のフルーツが栽培されている広大なフルーツ農場で、フルーツのテイスティング体験やフルーツ狩り、ジャングルボートなどが楽しめる場所です。私たちはまずトラクターに乗り、ガイドの説明を受けながらその広大な農場を巡りました。途中で栽培しているバナナを食べたり、マカダミアナッツを割って食べる体験をしました。その後、羊や山羊などの動物の給餌やフルーツの試食をしました。係員の方からフルーツの説明をされた後、約10種類のフルーツのテイスティング体験をしました。私はそのほとんどを食べることがなかったので、一応全部挑戦してみました。美味いと思えたのは半分ほどでした。こ





ここでは、日本とは全然違う植生がありました。とても広い土地に何種類もの植物があり、日本との違いをより強く感じる事ができました。

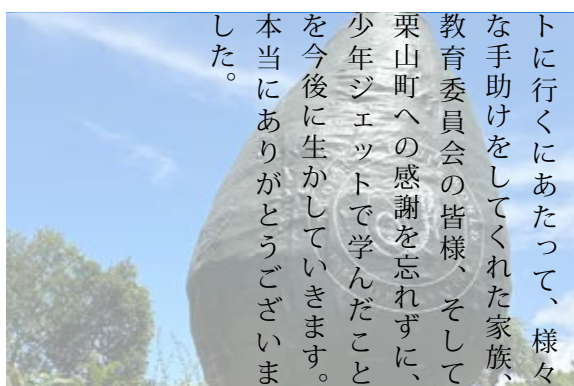
2つ目はカランビン自然動物保護園の見学です。ここはゴールドコースト最大の動物園で、100種類以上の動物が自然環境に近い状態で保護されています。ここでは現地の学生が案内し、丁寧な説明をしてくださいました。私達はまずカンガルーの餌やり体験をしました。カンガルーの背中に触

ることもでき、とてもいい経験でした。次に私達はペリカンのショーを見ました。野生に近い形で飼育されているため、どこかに飛んで行ったり、柵から道に出て行ったりして、びっくりしました。昼食後は、フリーフライト・バードショーを見学しました。このショーはさまざまな鳥が観客の頭上スレスレを飛行したり、飼育員の指示通りに飛ぶ迫力満点のショーです。特にフクロウが自分の頭上を飛行していくところは圧巻でした。コアラを抱っこする体験もしてみたいのですが、営業時間が過ぎていて、できませんでした。しかし、コアラを見ることはできたので良かったです。私がここで感じたことは、動物がそこら中を歩いたり、鳥が人のすぐ近くを飛ぶという自由さです。日本では、事故防止のため中々こういう場所がないので、海外らしくて面白かったです。

最後はホームステイです。私のホームステイ先はホストマザーが1人で暮らしていました。初日は、家で少し休んだあと、ビーチに連れて行ってくれました。次の日はお孫さんと一緒に別のビーチに行きましたが、オーストラリアの海はとても綺麗で、底の砂や魚が泳いでいるのが見えるくらい綺麗でした。その後、ロビーナ・タウン・センターというショッピングモールに行きました。とても大きくて見応えがありました。夜は映画を観賞しました。字幕もなく、理解するのが大変でしたが、とても勉強になりました。5日間という短い間でしたが、多くの思い出ができ、別れの時は悲しかったです。私がここで学んだことは、オーストラリアの生活や食文化についてです。例えば、朝ごはんは毎日シリアルだったり、早寝早起きが普通だったり、水をできるだけ使わない生

活をしているなどがわかりました。また、リスニング力は上がったと思っています。最初はあまり聞き取れなかったことも、日に日に聞き取れるようになっていきました。研修から帰ってきて変わったことは、以前より英語に関心を持つようになったことです。そして、何よりまた海外に行ってみたいと思うようになったことです。来年学校でも海外研修があるので、今はそれに参加しようと思っています。

最後に、私が少年ジェットトに行くにあたって、様々な手助けをしてくれた家族、教育委員会の皆様、そして栗山町への感謝を忘れずに、少年ジェットトで学んだことを今後に生かしていきます。本当にありがとうございます。





「GIRLS BE AMBITIOUS」

北広島高等学校1年 福井 里紗

私

が今回この研修に参加したきっかけは母の一言です。「今しかできない体験を体全部で感じられるよ、大人と子どもで感じると思うことの楽しさ、その後の人生の経験の中できつと役に立つよ。」と言われたのが応募したきっかけでした。

そして私はオーストラリアに行って3つのことを学びました。

1つ目は、日本と生活習慣が違うことです。特に私が驚いたことは家の中で靴を履いて移動することです。これはテレビや知人などから聞いていましたが、実際に目の当たりにして違和感しかなかったです。いつもの習慣で靴を脱いでしまいうるになり、あまり馴染めなかったけれど、貴重な体験でした。

2つ目は、日本人とは違ってオーストラリアの人たちはとても陽気で誰に対してもフレンドリーだったことです。何より、ホストファミリーが通りがかりの人とよく話して

いる姿には、とても驚きました。私が受けた印象では目があつたら話しているような感じでした。実際に私も知らない人から話しかけられたので驚きを隠せませんでした。日本では滅多にないことなので、文化の違いを感じました。私は街中で困っている人を見かけたら話しかけたいと思いますが、実際は話しかけられないので見習いたいと思いました。

3つ目は、オーストラリアの独自の言葉があることです。実際に英語やフランス語や韓国語などは聞きますが、オーストラリア語というのは聞いたことがなかったので驚きました。例えば、サングラスのことを「サニーズ」と言ったり、カンガルーのことを「ルー」と言ったりします。雰囲気では似ていると感じるものもありましたが、違う言葉もありました。それがバジーです。私は最初に聞いた時はなんのことを言っているかわからなかったのですが、



よく聞いてみると、「バーベキュー」だったことが分かりました。ホストファミリーが何気なく使っている言葉でしたが、理解できないことが多かったのでオーストラリア語をもっと学びたいと強く思いました。

オーストラリアに行く時、日本の文化の書道を伝えるという目標がありました。それをまず知ってもらいたかったのですが私は手土産に筆ペンと私が入力に墨で書いた羽子板を持っていきました。ホストマザーに渡す時に私が書道をしていることを伝えると驚いていました。実際に私が書いた作品を見せたら書道に対して興味を持ってくれたようでした。ただ、渡した筆ペンで字と一緒に書くことができなかったことがとても心残りです。

た。しかし、初めて買い物に行った時に「ここで待っていてね」と言われましたが、理解ができなく勝手にいろいろなところに行ってしまう、ホストマザーに「ここにいてね」と何回も言われるようになってしまいました。これからもっと勉強し、英語を聞き取れるようになりたいです。

ゴールドコーストで驚いたこともありました。国の中で時差があることや紫外線が強いため日焼け止めとサンングラスが必須だということもありますが、中でもゴールドコーストの動物園に行った時にワオキツネザルが柵の上を歩いていたことです。日本の動物園では柵の外に動物がいたら、大騒ぎになりますが、オーストラリアではそれが受け入れられていることに驚きました。翌日に訪れたトロピカルフルーツワールドでは時差が1時間から2時間になっており、国の領土の広さを感じました。本や資料ではあまり実感できなかったので、

実際に行って日本では感じられない感動の瞬間でした。今でも写真を見るたびにその時の感動がよみがえり、その体験を話したりしています。

私の中の1番の思い出はホストファミリーと一緒にバーベキューをしたことです。私はオーストラリアに行く前からバーベキューをしたかったのですが、ホストファミリーに「何をしたい？」と聞かれた時には「バーベキューをしたいです」答えました。「バーベキューは特別な日にするんだよ」と言われ、日本とは違うことに驚きましたが、ホストファミリーとの最後の夜に食べることができました。バーベキューをした場所はずいぶん近かったです。とてもおいしくて、最高の思い出になりました。

私は今後、この研修で学んだことを活かしていきたいように頑張っていきたいです。現在、私は看護師になりたいと思っています。英語を使う場面があると思うのでこれからも

気を抜かずに勉強していきたいと思っています。ホストファミリーには、いろいろなことでお世話になり、とても感謝しています。この恩を何らかの形で返したいと思っています。

また今回、オーストラリアに行くことができたのは教育委員会の方々、栗山町の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。この経験を今後様々な形で栗山町のために活かし、貢献できるように頑張っていきたいと思います。今回は本当にありがとうございました。





「一生物の思い出」

千歳高等学校1年 村上 桜

私

は海外に興味があり、小学生の頃から英会話

スクールに通ったり、高校も英語に力を入れた学校を選び、学んできました。その力を試したい、異文化を学びたいと思い、応募しました。大学や社会人になつてからも外国語を中心に学びたいと思っているので、その為に高校生のうちに英語を流暢に話せるようになりたいと思ひ英語力向上を目標に今回の研修に臨みました。そのため私は、オーストラリアに行く前に英語や現地のことを勉強しました。

本研修ではゴールドコースト行きの飛行機に乗った時から自分にとっての英語の勉強が始まりました。CAのほとんどが外国の方で話しかける時にとても緊張しました。9時間の飛行はとても疲れましたが、映画や音楽を楽しみました。ゴールドコーストについてからは、暑さのため夏服に着替

えたり、外の景色の写真を撮ったりしました。

その後、すぐにホストファミリーと対面しました。しばらくの間はなかなか上手くコミュニケーションが取れませんでした。ホストファミリーが話しかけてくれたり、何度も聞き返してしまったり、発音が通じなかったりと苦戦してばかりでした。

しかし、ホストファミリーの方はとても優しく、何度聞き返してもにこにこ教えてくれ、色々な場所や、たくさん美味しいものを提供してくれました。オーストラリアの方はとてもおやかで優しい方が多いと思いました。

ホームステイは大変でしたが、とても楽しい日々でした。海やプールにもほぼ毎日連れて行ってくれました。英語も少しずつではありますが、1度で聞き取れるようになったり、自分から積極的に話しかけられるようになったりしました。





そのため、ホストファミリーと別れる時はとても悲しく最後にはホストマザーがハグをしてくれました。5日間という短い期間でしたが、とても仲良くなれたし、自分の成長に繋がったと思います。ホストファミリーには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

ホストファミリーと別れたあとは、団員のみんなで様々な場所に行きました。オーストラリアの絶景を見に行ったり、トロピカルフルーツワールドでは、日本でなかなか食べられないフ

ルーツを食べたり、ホテルの近くのショッピングモールにお土産を買いに行きました。そこでも会計時の英語に苦戦し、1番大変だったのはお金の使い方でした。ドルとセントでお金を計算するのがとても難しかったです。

その後ホテルに帰ってからは、オーストラリア最終日のため、少し寂しさを感じましたが楽しく過ごしました。

オーストラリアでは、リアルとパンをよく食べることに、とてもフレンドリーで優しい方が多いこと、日本車が多いこと、水は基本必ず飲みきること、オーストラリアスラング、オーストラリア特有の動物、早寝早起きなどたくさんのかを学びました。

日本に帰ってきて思ったことは、日本食がとても美味しいと思いました。そして、日本人は早寝早起きではなくとてもゆっくりなの

だと思いました。

今回の研修を踏まえ、今後も海外に行く時は、事前文化や行く街について調べ、英語も沢山勉強し、いい勉強になるようにしたいと思っています。私は高校の授業で海外研修や、海外の人と関わることで、JICAの人の話を聞くことがよくあるので今回学んだことや感じたことを活かして今後の自分の目標に向け高校生活残り2年間頑張りたいです。

そして、大学に行っても大人になってもからも英語や他の言語に触れ続けていきたいです。

今後少年ジェットに参加したいと思っている方は、海外に行くことの楽しみや、不安など様々な思いがあると思います。私も応募した時、応募人数がとても多く合格できるか、合格してからもオーストラリアでしっかり話せるか、学んだことを身につけて帰って来れるか、迷惑をかけないかなど、

たくさん不安がありました。ですが、実際にオーストラリアに行ってみてとてもいい経験ができ、とてもいい思い出になりました。これは「一生物の思い出」だと思うので、ぜひたくさんの人に応募してもらい、たくさんの人とオーストラリアの素敵な景色を見て、素敵な人と出会って欲しいと思います。





「take a step forward」

岩見沢西高等学校1年 山本 啓翔

私

はこのオーストラリアでの研修で沢山のことを学びました。その中でも1番自分のためになったことは、「自分から行動をしない」と何も変わらない」ということです。なぜかという、オーストラリアではもちろん英語を使いますが、自分は間違えるのが怖くて最初は話すことができませんでした。ホストマザーに

対し勇気を振り絞って話してみると、発音が上手にできず伝わりませんでした。しかし、ホストマザーが意味が伝わるまで聞いてくれました。その時、発音を間違えた自分の感情に恥ずかしさや嫌な感情は一切なく一歩を踏み出した自分に嬉しさを覚えました。

人は挑戦をしたら失敗するか成功するかは二択ですが、何も行動をしないと現状維持の一択です。それから一歩を踏み出し挑戦して、失敗してもいいからやってみることが大事です。それ

にその失敗というのはこれからの人生で必ず役に立ちます。

そしてオーストラリアに行って驚いたことは、他人から躊躇なく話しかけられたことです。日本人だと他人に対して一回その場で考えてから話すか話さないか決める人が多いと思います。オーストラリアでは積極的に行動しようとする人が多いという印象です。

食事の面では日本とは全く違うと思いました特にスプーン、ナイフ、フォークが主流になっていて自分はそういう知識がなかったので驚きました。

そして自分が1番驚いたことは、海がとても綺麗なことです。北海道にある海は少し青が強い印象ですが、オーストラリアの海はとても透き通っていて感動しました。家族で来ている人たちや、恋人同士、友達同士で来ている人が多く、そこは日本と同じだと思います





た。なかにはサーフィンを始める人がいてとても驚きました。

オーストラリアのホームステイ先は、一人暮らしのホストマザーでした。とても良い人で私たちの事を良く考え接してくれました。例えば日本では見られないとても大きなショッピングモールや、研修でのお弁当をその人の食べる量に調整して作ってくれたり、海に2回も連れて行ってくれました。細かいことを言うと洗濯や食事、映画鑑賞や車での送迎など、

本当に苦労したと思います。本当に感謝しかありません。

何より今でも鮮明に覚えていることがあります。私はオーストラリアの食事があまり舌に合いませんでしたが、失礼のないようにしなければと頑張っていたところ、ホストマザーが『無理して食べなくていいよ』といい、今では普通の言葉に感じるのですが当時の自分にはとても響く言葉でした。

これから応募する人には、私のホストファミリーのように良い人がたくさんいるので、安心して行つて欲しいです。応募する人に対し心から応援します！

そして私の思い出として飛行機に乗る時にキャリーケースの重さがとても重く、20キロを上回ると追加料金がかかるのですが、約19キロとギリギリでもとても焦りました。その時にしっかりと荷物の重さを家で測ればよかったと、後悔しました。

持つていく荷物は充分でも重量オーバーしては意味がありません。これから飛行機に乗ろうと思っている人は気をつけてください。

最後に、私は今回の研修でたくさんのかことを学び、経験できました。動物園で実際に見たことない動物（カングルーやコアラなど）を見たり、海外の中学生・高校生と話して得た知識だったり探せばもっともったくさんあります。行動をしないと何も始まらないという気づきもありました。これは自分が将来成功するために必ず必要になると思います。

このオーストラリア研修に参加したいと思う人はぜひ応募して、ショッピングモールやオーストラリアの美しい海を実際に自分の目で確かめてください。本当に素晴らしい学びや体験が詰まった研修だと思えますし、これは行った人にしかわからないと思います。

どんなに失敗しても、それはいつか自分の武器になる。この研修で培った学びや体験は決して裏切らないと私は断言できます。それほどに良い研修でした。最後にこの研修で協力してくれた両親や教育委員会の方々に対し、本当に感謝しています。研修に参加させて頂きありがとうございました。





「異文化にふれて」

栗山中学校3年 佐藤 柚希

ま

ず、私が少年ジェットを
知ったのは今から2年ほ

ど前です。私は以前から海外
に行ってみたかったので、去
年の8月頃に少年ジェットが
再開したことを知り、申し込
みました。私は中学3年生な
ので、オーストラリアでの研
修の直後に受験を控えていま
したが、自分を試す良い機会
だと思い、挑戦しました。

オーストラリアで感じたこ
とは、どこへ行ってもフレンド
リーな人ばかりで、親しみ
やすいということです。散歩
をしていても、ショッピング
モールへ行っても、たくさん
の人が話しかけてくれて、私
のコミュニケーション能力は
上がったと思います。大変だっ
たことは、買い物をするときの
レジでスムーズに挨拶を交わ
し、店員の英語を聞き取りなが
ら会計をすることがとても忙
しかったことです。初めはぎ
こちない挨拶になっていたり、
袋をもらうなどの会話が難し
かったりしましたが、何度も
英語で会話をしているうちに、

スムーズにできるようになり
ました。また、現地に住んで
いる日本人の方との出会いや、
日本に住んでいたという外国
人の方とオーストラリアと日
本についての話をして、実際
の生活を直接学ぶことができ
たのが嬉しかったです。

私は70代の夫婦とその娘夫
婦の4人と、猫3匹、犬1匹
が暮らしている家庭にホーム
ステイしました。行く前は、
知らない人の家で暮らすのは
初めてで不安が大きかったの
ですが、ホストマザーが初日
に、「リラックスして、好きな
時に好きなことをしていいよ」
と言ってくれたことで、私の
不安はすぐに無くなりました。
家の周りを散歩して、近くの売
店でアイスを買ったり、家に
あるプールで遊んだり、一緒
にテレビで映画を見たりして、
実際の家族のように受け入れ
てくれたので、とても楽しく
過ごすことができました。ホー
ムステイ先の家庭に滞在して
みて、ゴールドコーストの生
活習慣や文化を身近に感じら



れました。私は特に、ここに暮らす人達はみんな早寝早起きなことに驚きました。ホストマザーたちの犬の散歩について行かせてもらったときに、近所に引っ越をしてきて荷物を運ぶのに困っていた方と出会い、初対面でも関係なく「助けが必要なら家に来てね」と話している姿を見て、私もこんなふうに優しく話せるような人になりたいと思いました。

ホストファミリーにはビーチや、キリスト教会、ショッピングモールなどに連れて行ってもらいました。特に教会は静かな場所を想像していましたが、バンドグループが演奏をして、キリスト教にまつわることをコンサートのように歌っており、とてもギャップがありました。教会にはなかなか行く機会がないので、良い経験になりました。

現地の学生との交流では、年がひとつ下の女の子と話をし、聞き取ることができたとし、私はその子に伝わるような英語を話せたことが本当に嬉し

かったです。

6日目に訪れたトロピカルフルーツワールドは、出発した場所からバスで1時間移動しただけで、時差があったことで、出発した時間と同じ時間になっていたことにとても驚き、オーストラリアの大きさを実感しました。またこのトロピカルフルーツワールドで、ドラゴンフルーツやドリアンなどの日本にはない果物を人生で初めて見て、ここでは異国情緒を感じられました。新鮮で色鮮やかな果物を試食してみても、中には美味しくないものもありましたが、体験できて楽しかったです。

ブリスベンでは市内の美術館や博物館を訪れました。美術館では海外のアートを見て、日本と異なる文化や価値観に触れることができ、自分自身の価値観を広げることができました。なかには、オーストラリアの先住民族であるアボリジニにまつわるアートがあり、新しい技術やアイデアが取り入れられていて、美術の

進化について学びました。博物館は、日本にいない生き物の剥製やサメなどのレプリカが、実物大で上から吊るされていて、それがオーストラリアで生きていると考えると、とても不思議な気持ちでした。また、展望台からブリスベンの景色を見渡すと、東京のような都会とは少し違って、自然と高層ビルがすぐ近くにある街並みがとても綺麗で、印象に残っています。

この研修では、日本と違うオーストラリアの文化について学び、異文化に触れることで、自分の視野を広げられました。また、現地での交流によって、コミュニケーション能力を上げることができました。

日本に帰ってきてからは、身近に海外の話があると、今まで以上に興味を持つようになりました。そして、他の国にも行ってみたいという思いが強くなりました。また、日本の良さにも気づくことができました。例えば、自動販売機です。オーストラリアには

ほとんどなく、あったとしても、種類は少ないし値段は高いのでとても驚きました。一方、日本の自動販売機はどこにでもあって、温かい飲み物や、飲み物以外のものでも売っているのを、改めて素晴らしいなと思いました。

今回の研修では、英語力やコミュニケーション力など、行く前より成長して帰ってくることができました。この経験は将来必ず役に立つと思うので、挑戦できて本当に良かったです。





「一生忘れない思い出」

栗山中学校2年 村上 颯一

私

がこの研修に参加した理由は、自分の英語

力向上を図ることと、現地の生活環境や文化を理解し日本との違いを発見したいと思ったからです。初めての海外だったので、出発する前は自分の英語がどれほど通用するか不安でしたが、「失敗しない人間は何も行動を起こささない、人間は失敗して成長する。」という言葉

を教育長からもらったので、失敗を恐れずに9日間現地で行動することができ、沢山の思い出が出来ました。

ゴールドコーストに着いて、市内を見学し有名な場所を巡っている間に自分は海外にいるという実感が湧いてきました。その日の午後

後にホストと対面し、そこから5日間お世話になりました。そこでは沢山の思い出と学びを得る事ができました。初日の夕飯はピザだったので生地づくりとソース作りを行いました。その後、ビーチに行って海に入りま

した。海はとてもきれいで、市街地のすぐ横に位置していて驚きました。そして家で夕飯を食べたあとに家の近くを散歩し、その日が終了しました。

2日目はホストと1日過ごしました。この日は午前から買い物に連れて行ってもらい、お土産を買ったり、ゴールドコーストの中心部に連れていってもらいました。お土産屋の店主から硬貨の種類やお札の種類、そして上手な遣い方を教えてもらいました。それを実践することは難しかったです。店主のわかりやすい説明のおかげで理解することが出来ました。

3日目の現地の中高生との交流では、対面で現地の人と英語を使って意思疎通をすることが初めてだったので、緊張しましたが相手の方が優しく、私が話した英語を理解しようとし、日本についての質問をしてくれたのでとても嬉しかった。





たです。海外の人に日本の良いところをアピールするチャンスだと思ったので一生懸命その質問に答えることが出来ました。

4日目のカランビン野生動物公園では、コアラやカンガルーなどの動物と自然に触れ合うことが出来ました。特に思い出に残ったことは、生でコアラを見ることが出来たこととカンガルーに餌を与える際にカンガルーに手を強く噛まれたことです。コアラは夜行性なので起きているコアラは少なかったですが起きてい

るコアラを撮影することができました。

5日目のトロピカルフルーツワールドでは、マカダミアナッツを食べたりバナナを食べたりすることが出来ました。中には食べた舌が恐ろしい感覚に襲われるものもありました。また、トロピカルフルーツワールドはニューサウスウェールズ州というシドニーやキャンベラなどの大都市が位置する州にあるので、日本との時差は+2時間、ゴールドコーストやブリスベンが位置するクイーンズランド州とは+1時間あったのでオーストラリアもアメリカと同じように、同じ国で時差が生じる国であるということがわかりました。

6日目は朝にホストと別れ、ブリスベンを訪問しました。お別れをすることはとても悲しかったですが、ホストの方と沢山の思い出と学びを得ることが出来たので後悔はなかったです。

ブリスベンでは、有名な観光名所の見学や博物館などを訪問しました。ブリスベンは9年後の2032年に夏のオリンピックが開催される予定なので、街は再開発が行われタワーマンションや高層ビルの建設がされています。

7日目はオーストラリアから飛行機で日本に帰国し、成田空港近くのホテルに宿泊、翌日栗山に帰ってきました。

この9日間で私は様々なことを学び経験することや、語学力を向上させることが出来ました。1つ目はオーストラリアの英語にはなまりがあったことです。例えばキャンプトという発音がコントという発音になります。

2つ目は日本の企業が海外に沢山進出していたことです。ユニクロやトヨタなど有名な企業が沢山あり、日本が世界に通用し、そして世界の役に立っていることがわかりました。最後はホ

ストとの交流です。ホストには、英会話を上達させる方法や知っておくべき英単語について教えてくれたこと、日本の文化や生活、日本語について理解してくれました。教えられた言葉の中心で一番心に残っているのが、Bless youという言葉です。

この単語はくしゃみなどをした際に相手にお大事にとという意味で贈る言葉ですが、この言葉には様々な意味や力があると思います。“安心して”という意味、“人を幸せにする力”、“笑わせる力”

など。私はこの言葉が1番お気に入りです。これらの思い出や学びを活かし今後の生活や、将来にも繋がっていくるように、日頃から努力を積み重ね色々な経験をしたいです。そして貴重な体験をさせてくれた家族やジェットの団員と教育委員会の方々に感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。





少年ジェット「希望の翼」 活動をプレイバック

少年ジェット  「希望の翼」









少年ジェット「希望の翼」 (@syounen_jet2023)
Instagram photos and videos
Instagram



令和5年3月発行



発行／栗山町教育委員会・少年ジェット「希望の翼」実行委員会

〒069-1513 北海道夕張郡栗山町朝日4丁目9番地3 6

TEL0123-72-1117／FAX0123-72-6522